

番組審議会議事録（第89回、令和7年10月開催）

1. 開催年月日 令和7年10月29日

2. 開催場所 ゆめタウン廿日市内FMはつかいちにて

3. 委員回答

委員総数・・・7名

回答委員数・・・7名

●回答委員 小松隆文・船附洋子・柴久美子・三浦実一・植村明美・錢谷綾介・堀川かなみ（代理出席）

●未回答委員

●放送事業者側 倉本良一・香川典加

4. 議題

これからの番組審議会のあり方、日頃お聞きになっている放送のこと、局全体のことなど何でもご意見をお願いします。

5. 議事の概要と審議内容ほか

■番組名：特別番組 伝える使命～それぞれの世代へ～2025

【番組主旨】

広島に原爆が投下されたあの日から今年で80年。

二度と繰り返さないために。私たちはこれから何をしなければいけないか…何を訴えていかなければならないか…。

それぞれの世代へと向けて発信、伝えていかなければならないか…。

家族と、友人と、ご近所の方と、同僚と…平和について考えて頂くきっかけになればと思い、2017年から毎年夏に特別番組として放送。

《前半》山本 繁生さん(84歳)

アシスタント：廿日市市立平良小学校 6年 池田硯さん、5年 木村紗由さん

80年経った今でも鮮明に思い出す光景。

原爆投下後、古江で見た避難をしてくる多くのけが人の姿。

「助けたいという一心で、苦しむ人たちに水をあげる母の手伝いをしました。」戦争の悲惨さ、戦争のない世界を実現するための強い思いをお聞きしました。

《後半》吉田 久美子さん(92歳)

アシスタント：廿日市市立廿日市中学校 1年 金山栞さん

先日、平和記念資料館へ寄贈された被爆死されたご友人の日記。

原爆で同級生が亡くなり、残された家族の苦しみも知る吉田さん。

「原爆を知らない子どもたちがいることは悲しい。私たちが伝えていなければ。」と静かに語っていただきました。

進行役：東園恵

放送：8月16日(金)13時～・再放送：8月17日(日)12時～・8月18日(月)15時～

【番組について】

・最初の山本さんの話を聞いた時にはイデオロギーが入っているのかと思った。あの頃はこんな生活だったのかと聞いて終わってしまう。小学生、中学生も出ていたのでこの放送を聞いての感想文を入れるなどして工夫し、外堀を作っていくと良い。中学生はきちんと良いことが言えていた。

・最初の山本さんの話では悲惨な話をしていたので、自身の中学校の時の先生が悲惨な体験をしていて当時から悲惨な映像を見せられて、この手の話題はシャットアウトしていた。今の日本に危機感を覚えている。

・パーソナリティとアシスタントの小学生の声良かった。山本さんの「あまり話をしたくなかった」というのがリアルだった。自分自身が小中学生の時には原爆資料館は何度も行っていたが、今は小学校、中学校で各1回行くかどうかくらいになっている。広島の子にはきちんと伝えていかないといけないと思った。もっと子ども達が出演する機会があれば保護者も聞いてくれる機会が増えると思う。

・山本さんの話がとても臨場感があり、想像しやすく良い面と、小学生が聞いた時には怖く思わないのかなと思う面とあった。吉田さんのは優しかった。自身は山口県出身で、中学生の時に平和資料館に来たことがあるか、蟬人形などが怖くて走って逃げた記憶がある。広島だけではなく、広がっていけば良いと思った。

・体験者の方の言葉を若い生徒さん達が話を聞いて、発言していくというのがすごく良い。高い意識を持っていく人が増えていくと良い。最初の発言から後半に変わっていくというのは、自身の中でも考えているうちにある。県外出身者の自身も広島や長崎の資料館を見て学んでいた。やり方によってはトラウマになってしまうこともあると思うが、こういう番組を作っていくのはとても大事なことだと思う。実際に聞いたり、見たりということは大事。

・この番組を立ち上げたということが素晴らしい。そこから子ども達が学ぶし、誰かが石を投げないと広がっていかない。FMのこの取り組みを続けてほしい。

・母が女学生の時に被爆していて、その事は知っていたが、本人に長い間聞いたことがなかった。自分が体験したことを聞いてみた。あの頃は被服支廠の中で被爆。外から人が入ってきた姿を見ると、一言で言うと「地獄だった」と。その時は父が湯来から訪ねてきたが会わせてもらえなかったというのがあった。被爆しながらも語らずに亡くなった人もたくさんいたのではないかなと思う。話すというのは勇気が要ると思う。勇気を出して話してくださったのだと思う。自分だったら辛い記憶を思い出すから話したくないと思うが、こういうのをどんどん残してほしいと思う。